

H22.10.6(水)

水

10月からインフルエンザのワクチン接種が始まった。新型インフルエンザが猛威をふるった昨季は、一時、ワクチン不足で混乱したが、今季はどうなるのだろうか。広島県健康対策課で感染症対策を担当し、医師でもある岸本益実課長に聞いた。(平井敦子)



広島県健康対策課 岸本益実課長

今季のインフル対策 広島県健康対策課の岸本課長に聞く



インフルエンザのワクチン接種を受ける子ども (1日、広島市南区のもり小児科)

新型と季節性 ワクチン一本化確保十分

「昨季のワクチンは「新型」と「季節性」用と2種類ありました。今シーズンは、新型と季節性(A香港型とB型)が一本化され、1種類だけです。国内で、過去20年間で最多の5800万回が生産される見込みで、例年と比べても、十分な量が確保されているといえるでしょう。

「だれでも接種できます。昨季は医療従事者や妊婦、基礎疾患がある人が優先されましたが、今季はそうした制限はなく、だれでも接種できます。」

「原則として13歳以上は1回、13歳未満の子どもは2回の接種が必要。接種できるのは、国と契約した医療機関で、市町村が把握しています。発熱などがなく、体調が良い時に受診しましょう。」

「接種の費用は、昨季は全国一律1回3600円でしたが、今季は自治体ごとに費用を定めます。国は、

だれでもOK 来月までの接種推奨

1回目3600円、2回目は2550円と目安を示しており、広島県内では、3600円を上限とする自治体がほとんどです。65歳以上の高齢者は自治体の助成があつて県内では千円程度で受けられる自治体がほとんどです。非課税世帯や生活保護世帯の人は、自己負担なしで受けられます。 「いつごろ接種すればいいですか。」 昨季は県内は8月末に流行が始まり、11月下旬にピークを迎えました。今季はまだ流行は始まっておらず、流行するウイルスも新型なのか従来の季節性なのか分かりません。 ワクチンの効果が出るのは、接種後2〜4週間からで、約5カ月間は有効とされています。例年、11月ごろから流行が始まり、1月後半から2月前半にピークを迎えることが多いので、11月までの接種を勧めます。 「予防のために気を付けることは、 バランスのよい食事をして、適度な運動をして、基礎体力を付けることが大切です。また、手洗い、うがいの励行を心掛けましょう。」